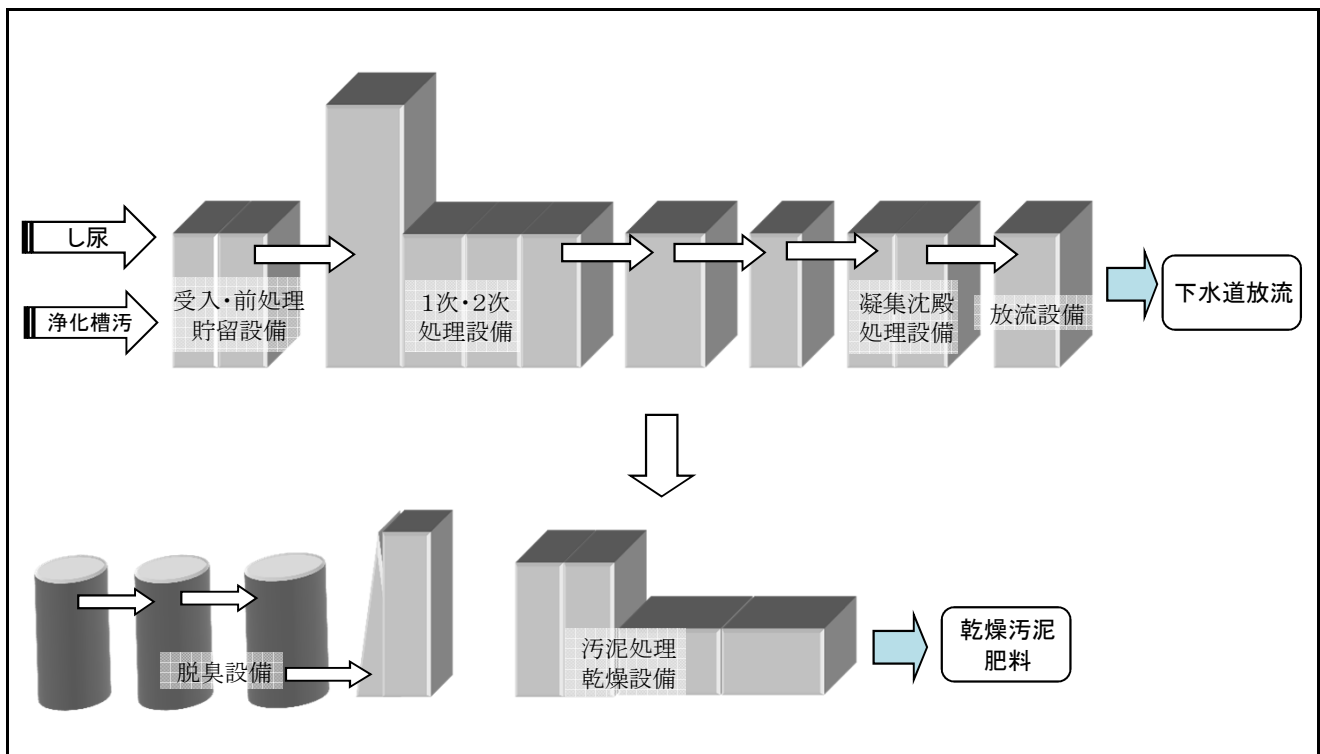


## 施設概要

名 称	塩釜地区環境センター
所 在 地	〒985-0087 宮城県塩竈市字伊保石2番98
敷地面積	10,270㎡
建築面積	処理棟：1,347㎡ 管理棟：304㎡
延床面積	処理棟：2,804㎡ 管理棟：520㎡
着 工	平成9年8月
竣 工	平成11年3月
処 理 方 式	水処理：高負荷脱窒素処理方式 汚泥処理：フィルタプレス脱水＋低温乾燥 脱臭処理：高濃度臭気＝アルカリ活性炭触媒脱臭 中濃度臭気＝薬品洗浄＋活性炭吸着脱臭 低濃度臭気＝活性炭触媒脱臭
処 理 能 力	95KL/日（し尿77KL/日、浄化槽汚泥18KL/日）
放流水質	P H 5.8～8.6 BOD 20mg/ℓ以下 COD 120mg/ℓ以下 S S 70mg/ℓ以下 T-N 20mg/ℓ以下 T-P 1mg/ℓ以下
施 工 管 理	日本技術開発株式会社
設 計 ・ 施 工	株式会社 クボタ

（塩釜地区環境センター処理フロー図）



### 受入・前処理工程

搬入したし尿と浄化槽汚泥から、石や砂を除去し、さらには紙・布・ビニールなどを細かく切断して取り除きます。取り除いた紙・布などは搬出します。

### 1次・2次処理工程

BOD（有機物）と窒素化合物のほとんどを除去する工程で、希釈水がほとんど要らない高負荷脱窒素

処理方式を採用しています。各槽内の状況を適切にコントロールすることにより、硝化菌・脱窒素菌など性質・働き異なる微生物を、うまく組み合わせ利用します。微生物処理した後は、処理水を汚れの成分である汚泥ときれいな上澄水に固液分離します。汚泥が沈殿しやすいように薬品の添加も行います。

## 脱臭工程

施設で発生する臭気は、その発生個所から直接ファンで吸引して、外部はもちろん場内にも拡散しないようにします。集めた臭気はそれぞれの成分に応じた効率のよい方法で脱臭処理します。

## 汚泥処理工程

し尿を処理することによって発生した余剰汚泥（主には、し尿を栄養にして繁殖した微生物のかたまり）は、脱水機にかけてから低温で乾燥させます。乾燥させた汚泥は乾燥汚泥肥料として無料で配布します。

### 省エネシステムの導入について

塩釜地区環境センターでは、CO2削減のため、平成26年8月から省エネシステムを導入し、電力使用量の削減、使用薬品の使用量の削減を図っています。

このシステムの導入により、年間電力使用量の約25%、年間使用薬品（硫酸パト<sup>®</sup>、苛性ソーダ<sup>®</sup>、メノール）の削減が見込まれます。

年間電気使用量⇒25%削減

使用薬品使用量（硫酸パト<sup>®</sup>、苛性ソーダ<sup>®</sup>、メノール）⇒18%削減

\*削減結果については、随時、ご報告いたします。